



不思議な絵を見せてくれるやっくん。

去る八月九日、恒例になった「**ほとけの子夏の集い**」が、三ヶ寺の土曜・日曜学校合同で行われました。今年はやっくん（藤澤先生）とむっくん（武藤先生）が来てくれました。

最初に不思議な絵を見せてくれました。ぱっと見ると一人の老人が描かれた絵ですが、見方によると、その人の手のように見えるのは人の絵だったり、あちこちに人が見えてきました。会の最初に「違う角度から見ると、色んな

物が見えてくる」ということを学びました。

午後からは人形劇

タヌキのポンタくとネコのひろしくん（ネコひろしではない）が、ヒーローごっここの主役をどっちがするかでケンカになります。ポンタくんは怒って山へ遊びに行つてしま

いましたが、そこは怖い生き物が住む危険な山でした。お坊さんの「ポンタくんだけが悪いのかな」という問いかけ

で苦しんでいました。そこでどういう訳か、アクションシーンが始まりました。伝道部人形劇では前代未聞、お笑いのまぎったアクションで、子供たちは大盛り上がり。そして、

なんとかカエルをやっつけたポンタくとネコのひろしくんは仲直りをするというお話でした。

伝えることと聞くこと

劇後、今年は、劇の受けとめについて話し合う時間を長



初に教えてもらった「決めつけずに、色んな角度から考えることが大切」という話になりました。

自分を素直に相手に伝える

龍大伝道部 夏期巡回

ほとけの子夏の集い

みんなは「勇気が大切」とか「友情が大切」と感じた話してく

をご縁に、ひろしくんは、自分も悪かったことに気づきます。そして、勇気を出してポンタ君を助けに山へ行きます。駆けつけると、ポンタくんが、化け物ガエルに噛みつかれ

く取りました。ワーワー騒がしくなるかと思いきや、「自分が話をしていない時も他の人の話をちゃんと聞こうね」とあらかじめ約束したせいか、みんなちゃんと話をするし、しつ

れました。また、ネコのひろしくんは、「ポンタくんだけが悪い」と思っていたのに、どうして「ボクも悪かった」という思いが変わったのだろう、という話になった時、会の最

でいつしよに学びましょう！

大事に聞いて下さいました。最後までもしつかりと、とても

かき聞いてくれました。特に、進行のむっくん（武藤先生）が、まだちゃんと話ができず、モタモタ話す小さな子の話も、

ことと、他を聞く（受容する）ことは、集団でお互いに支え合い、成長してゆく上でとても大切なことです。子供は徐々に親の手元を離れてゆき、友人の中で、そして社会の中で生きるようになります。自分のことをちゃんと伝え、お互いに理解しあい、支えあい、気づきあう関係ができれば、親の手が届かないところへ行つてしまってもきつと大丈夫、トラックで人の中に入つ込んでしまふような悲しい人生にはならないと思います。日校